

# マレーシア半島部の森林

新山馨、鷹尾元、佐藤保、宮本基杖、道中哲也（森林総研）

マレーシアは国土の約62%を熱帯林が占める有数の森林国です。低地フタバガキ林と丘陵フタバガキ林を中心に、商業価値の高い樹種が生育しています。伐採が急激に進み森林減少や劣化が危惧されましたが、現在、マレーシア半島部では持続可能な森林管理が推進されています。



図1 マレーシアはマレーシア半島部とサバ・サラワク州の3つで構成される。それぞれに林業局をもって、独自の森林管理を行っている。REDDプラスプロジェクトではマレーシア半島部を対象とした。



図3 マレーシア半島部の丘陵フタバガキ林

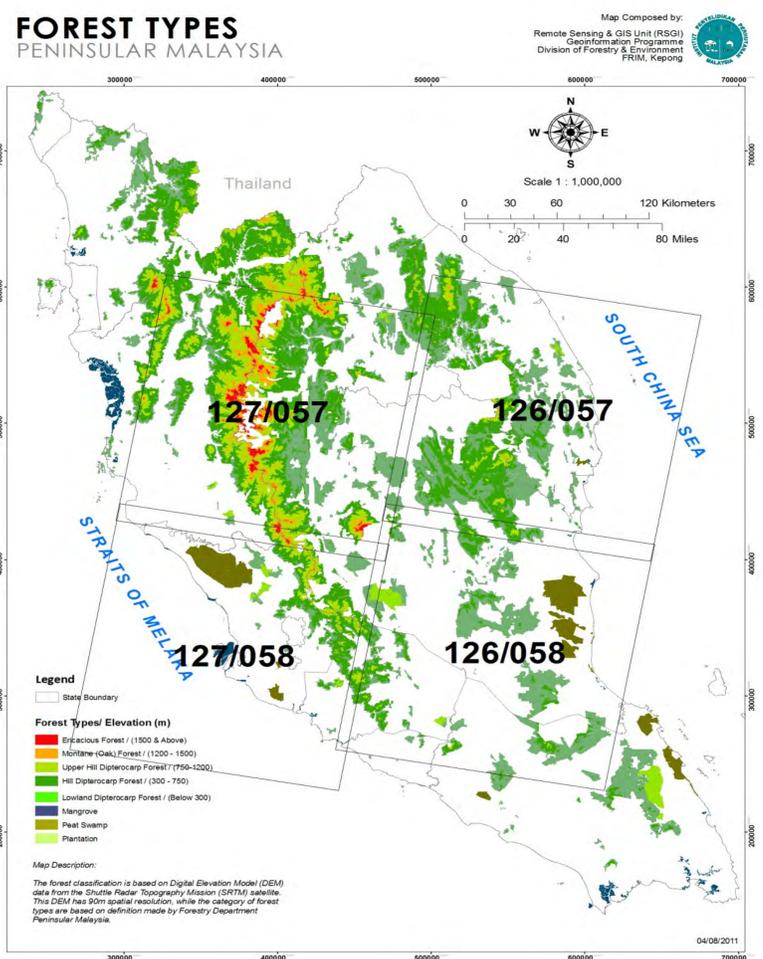


図2 REDDプロジェクトで対象としたマレーシア半島部の森林植生リモートセンシングの範囲



図4 マレーシア半島部の低地フタバガキ林

マレーシア半島部はかつて60%以上の森林率でしたが、1970年代にオイルパーム園の開発などで急激に森林面積が減少しました。

現在は46%程度の森林率で安定し、択抜を中心とした持続的森林管理が行われています。森林減少や森林劣化を抑制することが出来た成功例としてマレーシア半島部をREDDの研究対象としました。

すべての研究活動はマレーシア森林研究所と森林総合研究所との共同で行われました。